

平成13年度供給計画の概要

平成13年3月

 北陸電力株式会社

目 次

はじめに

1 . 需要見通し	1
2 . 電源開発計画	2
3 . 需給計画	3
4 . 主要送電線路・変電所の整備計画	4
参考：設備投資額	5

はじめに

電気事業においては、部分的な小売自由化がスタートし、お客さまの競争入札による電気の調達や、様々な新規参入者の動きが活発化するなど、本格的な市場競争が始まっております。このため、当社は北陸電力グループあげての経営改革を推進し、価格競争力と販売力の一層の強化を図ってまいります。

また、責任ある供給者として、エネルギーセキュリティの確保、供給信頼度の維持、地球環境保全などの公益的課題を達成するため、志賀原子力発電所2号機の建設などを推進してまいります。

当社は引き続き「低廉・良質・安定・クリーン」な北陸電力ブランドを一層充実することにより、地域の皆さまから信頼され、お客さま、株主の皆さまなどから選択される企業を目指してまいります。

平成13年度供給計画は、このような認識のもと、次の事項に重点をおいて策定いたしました。

徹底した経営効率化の推進

供給信頼度維持のもと、徹底した経営効率化を進めるとともに、お客さまの多様な課題・要望に迅速かつ的確に対応・解決する個別提案型マーケティング活動を展開してまいります。

- ・設備投資・修繕費の削減と設備全般にわたる効率的な運用
- ・事業分野別管理の導入等による業務革新
- ・業務用蓄熱式空調システムなどを中心としたトータルプランの提案
- ・お客さまの省エネルギーや生産性向上など、総合エネルギー効率向上に役立つコンサルティング活動の充実

長期的展望に立った電力の安定供給の確保

長期的な安定供給、エネルギーセキュリティの中核である原子力を推進するとともに、発電から流通に至るネットワークの整備を行ってまいります。

- ・志賀原子力発電所2号機、志賀中能登線の建設工事の着実な推進
- ・能越幹線の工事着工

地球環境問題への積極的な対応

地球環境保全の観点から、原子力や省エネルギーの推進などによる温室効果ガスの削減に資する活動に積極的に取り組んでまいります。

- ・志賀原子力発電所1号機の安定・安全運転による利用率向上
- ・志賀原子力発電所2号機の建設工事の着実な推進
- ・関係会社による小水力の開発
- ・北陸グリーン電力基金への支援による自然エネルギー普及促進
- ・省エネルギーやリサイクル活動など環境保全活動の推進

1. 需要見通し

(1) 販売電力量

今後の電力需要については、一層の省エネルギーが進むものの、民生用需要が生活の快適志向の高まりや情報化ならびに都市開発事業の進展などから引き続き堅調に推移することに加え、産業用需要も情報・通信機器関連の生産増加などにより安定した伸びが見込まれます。

この結果、平成22年度の販売電力量は302億kWhと想定しました。

(2) 最大電力

年負荷率は、冷房需要の増加などの低下要因はあるものの、蓄熱調整契約によるピークシフトや深夜需要機器の普及拡大などの負荷平準化努力により、至近年度の実績（気温うるう補正後）を上回って推移するものと見込みました。

この結果、平成22年度の最大電力は608万kWと想定しました。

第1表 需要見通し

年度 項目	平成 11 実績	12 推定 実績	13	14	15	16	17	18	22	年平均 増加率 11~22
販売電力量 (億 kWh)	249	257	259	264	269	274	279	283	302	1.8% (1.8%)
最大電力 (万 kW)	506	521	525	535	545	555	564	573	608	1.7% (1.8%)
年負荷率 (%)	58.8 (58.9)	59.4 (59.2)	59.3	59.3	59.3	59.3	59.3	59.4	59.6	-

(注)・()内は気温うるう補正後の値。

・特定規模需要を含む。

2. 電源開発計画

長期にわたる電力の安定供給を図るため、品質管理、環境保全、工事安全に万全を期し、志賀原子力発電所2号機の建設を着実に進めてまいります。

また、珠洲原子力地点については、中地域3社による協調体制のもと、引き続き地元合意形成に努めてまいります。

第2表 電源開発計画

電源種別	区分	地点名	最大出力 (万kW)	着手年月	着工年月	使用開始 年月
原子力	工事中	志 ^か 賀2号	135.8	9 - 3	11 - 8	18 - 3

<参考> 公営・その他の電源開発計画

事業者名	地点名	最大出力 (kW)	着手年月	着工年月	使用開始 年月
富山県	新 ^{しん} 大 ^{おお} 長 ^{なが} 谷 ^{たに} 第一 ^{だいいち}	7,500	8 - 3	9 - 12	13 - 9
石川県	新 ^{しん} 枯 ^{かれ} 湫 ^{ぶち}	3,600	S61 - 3	10 - 10	18 - 3
日本海発電(株)	新 ^{しん} 熊 ^{くま} 野 ^の 川 ^{がわ}	5,000	—	10 - 4	13 - 11
	久 ^く 婦 ^ぶ 須 ^{すがわ} 川	3,100	3 - 12	6 - 7	14 - 4

3 . 需給計画

需要見通しおよび電源開発計画に基づき ,合理的な補修計画など供給設備全般の効率的な運用により ,長期にわたる安定供給の確保を図ってまいります。

なお ,設備全般にわたる供給力の有効活用を図る広域融通を引き続き実施いたします。

第 3 表 需 給 計 画 (最大電力)

年 度 項 目	平成 1 2 実績	1 3	1 4	1 5	1 6	1 7	1 8	2 2
需 要 (送電端) (万 kW)	521	525	535	545	555	564	573	608
供給力 (送電端) (万 kW)	554	602	612	622	632	615	671	673
供給予備力 (万 kW)	33	77	77	77	77	51	98	65
供給予備率 (%)	6.5 (8.0)	14.6	14.4	14.2	13.8	9.0	17.1	10.7

(注) ()内は気温補正後の値。

第 4 表 電 力 量 構 成 比 (単位 : %)

年 度 項 目	平成 1 2 (推定実績)	1 7	1 8	2 2
水 力	2 4	2 3	2 0	2 2
火 力	5 4	5 3	3 7	2 9
石 油	1 0	9	5	5
石 炭	4 5	4 4	3 2	2 4
原 子 力	2 2	2 4	4 2	4 9

(注) 四捨五入のため合計が合わない場合がある。

4. 主要送電線路・変電所の整備計画

系統規模の拡大に対応して、電力を安定に輸送するため、志賀中能登線、能越幹線を新設いたします。

また、電力需要増加に対応して、越前、加賀変電所をはじめ、送変電設備を新増設いたします。

第 5 表 送 電 計 画

区 分	件 名	工 事 概 要				使用 開始 年月
		電 圧 (kV)	電線サイズ (mm ²)	回線数	亘 長 (km)	
工事中	しかなかのとせん 志賀中能登線（新設）	500	410×4	2	16	16 - 11
着工 準備中	のうえつかんせん 能越幹線（新設）	500	410×4	2	69	17 - 6

第 6 表 変 電 計 画

区 分	件 名	変 圧 器			使用 開始 年月
		電 圧 (kV)	容 量 (MVA)	台 数	
着工 準備中	えちぜんへんでんしよ 越前変電所（増設）	275/ 77	200	2	15 - 6
14年度 着手	かがへんでんしよ 加賀変電所（増設）	275/154	400	1	16 - 7

<参 考> 設備投資額

徹底した効率化のもと、設備投資額の抑制に努めてまいります。

平成13年度 1,134億円

平成14年度 1,315億円

(単位：億円)

項目		年度		平成13	14
		水 力	火 力		
拡 充	電 源	水 力		—	—
		火 力		—	—
		原 子 力		532	581
		小 計		532	581
工 事		送 電		182	205
		変 電		26	60
		配 電		56	55
		給電・その他		22	33
		計		818	933
		改良工事他		316	382
		総 計		1,134	1,315

(注)四捨五入のため合計が合わない場合がある。